

環境まちづくりをめざす

夏
2004

第20号

2004年7月30日発行

あじえんだ

「アジェンダ21」とは「21世紀への課題」という意味。
「京のアジェンダ21フォーラム」では、市民・事業者・行政が力を合わせて
環境と共生できるまちの姿を描いていきます。



みやこ
の
アジェンダ21フォーラム
ニューズレター



巻頭特集

第2段階に差し掛かる 京のアジェンダ21フォーラム

～ 発足6年、次の展開は？

環境ビジネス探訪 その4

エコにはまず「心」あり 株式会社ジイケイ京都

アジェンダNOW

京都市伏見区醍醐地域における
環境まちづくり・ひとづくり支援の取組

アジェンダフォーラム会員紹介 ひと・まち・きたる

津村 紗代さん

未来に残したい...
京の知恵

新観光人の視線で

観光にはもともと

「国の光を観る」という意味があり、
これら新種の観光人は

この京都に潜む未来への

「光」を学んでいるのでしよう。

一度この新観光人達に

ガイドをお願いして

京都市民のための

「京都再勉強ツアー」

など開催したら

面白いかもしれません。

写真 山口洋典

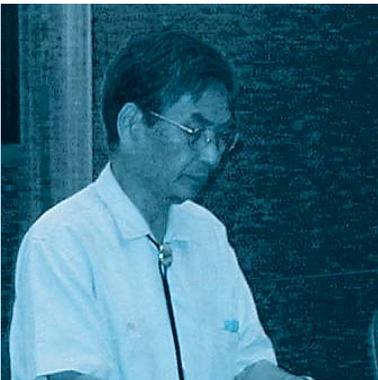
協力 KCTP(京都・サイクリング・

ツアー・プロジェクト

*詳しくは5ページをご覧ください

第2段階に差し掛かる 京のアジェンダ21フォーラム ～ 発足6年、次の展開は？

京のアジェンダ21フォーラム（以降、「フォーラム」）の発足から6年。フォーラムはこれまで様々な分野、立場を超えた環境まちづくりへの取組を実施・支援してきました。去る6月26日に開催された平成16年度京のアジェンダ21フォーラム総会における内藤正明代表の挨拶、第2部（京エコロジーセンター「京ECOセミナー」と共催）での小幡範雄氏（立命館大学政策科学部教授・本フォーラム幹事長）新川達郎氏（同志社大学大学院総合政策科学研究科教授）の講演を振り返りながら、京のアジェンダ21、及びフォーラムの今後の展望について考えてみたいと思います。



内藤正明氏（当フォーラム代表）挨拶
「活動は活発になった。しかし、温暖化防止にはより一層の努力が必要だ」

フォーラム発足とともに代表の大役を仰せつかって6年。その間、フォーラムの活動は年々充実し、広がっていることを心からうれしく思っています。

パートナーシップでこれだけの組織が活発に動いていることが今、全国から注目されています。この5月に（財）京都オムロン地域協力基金より「第15回 ヒューマンかざぐるま賞」を受賞したことも、「持続可能な京都づくり」を目指すフォーラムのパートナーシップ型活動が評価されていることの表れです。

しかし、このまま順風満帆で京都が「世界に冠たる地球にやさしいま

ち」になるかという、そう簡単ではありません。日本政府は、日本が京都議定書を守ることができないと宣言しており、ここまで活動を続けてきた京都市も、議定書に関しては決して楽観的でない状況にあります。これだけ努力し、苦勞をしているにも関わらず、地球温暖化防止、つまり議定書を守るといことは難しい課題です。

一方、ヨーロッパではデータを見る限り、着実に議定書の目標に近づいています。またEU主要国は最近、30%から80%といった二酸化炭素排出削減目標さえ掲げました。この差が何なのかといった点も含めて、

我々もこれからの活動をもう一度考え直し、なお一層のレベルアップを目指す時点にきていると思われま

す。
日本全体としては可能性が小さくとも、せめて京都は何とか議定書の目標に到達するように、皆さんとともに一層努力を重ねて行きたいと心から願います。京都市温暖化対策条例（仮称）も制定に向けて進む中、法的な裏付けを得ることでフォーラムの活動が、より実効あるものになることを期待しつつ、新しい年度の活動を一緒にがんばりたいと思います。よろしくお願ひいたします。



小幡範雄氏（当フォーラム幹事長） 「^{みやこ}京のアジェンダ21がめざす 京の環境づくり」

^{みやこ}京のアジェンダ21とは、まちづくり、環境への課題解決のために、地域の20～30年後の目標を立てたものです。京都市はそれに則って、二酸化炭素排出量を1990年レベルの90%に抑制することを目標とする「京都市地球温暖化対策地域推進計画」を策定しています。

1996年に会議を重ね、97年12月にはCOP3が京都で開催されたのを機に、「^{みやこ}京のアジェンダ21」が、翌年11月に京のアジェンダ21を推進する組織としての「^{みやこ}京のアジェンダ21フォーラム」が発足しました。それから6年、「走りながら考える」形で活動してきました。

^{みやこ}京のアジェンダ21には、まず「パートナーシップの確立」が求められます。その後、地域の課題把握・分析、行動計画・行動指針の作

成、普及啓発活動・進捗状況確認までは進みました。しかし、活動を通じて二酸化炭素排出量がどのくらい減ったか、あるいは環境指標で見たときに、京都の環境がどのように変わったかを示すといったことについてはまだまだ課題があります。そこで現在、その指標づくりを行っています。

フォーラム全体を考えても、会員やネットワーク、あるいは活動そのものをどうするかといったことは、今後の方向を選択する上で重要になってきます。また、活動は活発になってきましたが、人によって温度差が出てきていることについても、今後対策を考えていかなければなりません。

組織間の連携についていうと、フォーラム、^{みやこ}京エコロジーセンター、

京都市ごみ減量推進会議は、パートナーシップを取れるように目指していますが、資金の問題、活動内容の重複と役割分担、組織形態の違いなど様々な問題があります。連携の第一歩として、2004年1月から三者協働で『環境イベントカレンダー』の作成が実現しましたが、今後、どのような形の三者連携が求められるのか、皆さんも考えてほしいと思います。

最後に市役所内の部局間連携も必要です。フォーラムには環境局のみならず、他部局も参加していますが、会議での立場、フォーラムそのものの認知度、そこでの決定の重さといった点も今後検討していく必要があります。



新川達郎氏 「市民参加とパートナーシップによる 持続可能なまちづくりとは」

^{みやこ}京のアジェンダ21フォーラムが成り立つ考え方の根本には「パートナーシップ」があります。パートナーシップとは、個人やグループなど

が、それぞれの主体的な役割があるということを前提にしてなお相互に協力する連携関係のことです。

それぞれの主体には自ずと限界が

あります。それを乗り越え、ずれ、隙間、ギャップを埋めるのがパートナーシップ活動です。各主体には人材、技術、お金、情報等の過不足が

第2段階に差し掛かる京のアジェンダ21フォーラム ~ 発足6年、次の展開は？

あります。そこで、それぞれの能力不足を補い合う「相互補完」や、もう半歩進めた「相互協力」が求められます。さらに目標達成までは協働体制を組むことによって問題を解決するという方法もあります。

フォーラムの役割には、その基本原則として、いろいろなセクターのパートナーシップによる環境活動があります。また、活動指針としては環境問題に関わるさまざまなネットワーク作り アジェンダ21に基づく環境保全活動の率先実行 さまざまな環境保全活動に対する支援協力 環境問題に関する調査研究と情報幅広い受発信、が挙げられます。しかし、パートナーシップ組織も

変わっていくことが必要です。さらにいろいろな人たちが関わることによって、活動そのものが充実していくのです。そのためには、まず第一に活動の広がりを実現することです。協力関係をつくり、市民的支持を得る必要があります。第2に自律的・自立的な運営、すなわち運営面、財政面での自立、継続的で経済的な活動であること、しかも効率的な組織であることが求められます。そして、第3に多様な環境問題にこたえることです。環境問題は複雑で地域から地球レベルへも波及します。それゆえ環境問題の広がりや深刻化に対応した行動を展開しなければなりませんし、専門的な知識や技術の学

習も必要です。さらに専門家のネットワークを作ることや関係者の環境活動をサポートするという役割もあります。フォーラムはこのネットワークの中で、客観的、科学的な学習の場として、一番ニーズに答えやすい位置にあるのではないのでしょうか。なぜならば、問題の広がりに対応した活動ができること、そして、関わっている人たちそれぞれが持っている専門的知識、技術のストックがあるからです。市民の学習、活動を広げ、深めるプロセスをフォーラムがどのようにつくっていけるか。その大きな役割を積極的に果たしていくことが求められます。

パートナーシップは「質の時代」へ 対談から

小幡・新川両氏で行われた対談はさらに突っ込んだ内容のものとなりました。

小幡氏からは、事をなすときには「信念と情熱を持つ人」「はやし立て、後押しする人」「何とはなしについてくる人」「足を引っ張る人」「無関心な人」という5つのタイプの「まちづくり5人衆」がいて、多様性の中で上手にまちづくりをやっていくことが肝要だということを、また新川氏からは、掲げた目標の振り返りをしていく中で活動を広げていくこ

とができるのではという意見をいただきました。さらに現在、フォーラム、京エコロジーセンター、京都市ごみ減量推進会議の三者の事業は、重複しているところもありますが、そこからたくさんの人やグループが育ってくることによって棲み分けができ、それぞれの役割やアイデンティティを認識する必要性が出てきます。そこで新たなパートナーシップができてくるという今後の環境まちづくりの動向を示唆することも話題になりました。

今後、従来の環境対策だけでは解決できない問題が増えてきます。そこでこれからは「パートナーシップの質」(新川氏)が問われるようになってきます。フォーラムに関わる人たちがそれぞれに立場と思想、そして相手を理解することでルールや役割が明確になってきます。発足6年、パートナーシップ組織としてのフォーラムそのものの役割も、少しずつ明確になりつつある、そんな「第2段階」に差し掛かっているのではないのでしょうか。

(表) 京のアジェンダ21と京のアジェンダ21フォーラムの特徴 (小幡氏)

京のアジェンダ21の特徴	京のアジェンダ21フォーラムの特徴
行動計画を越える市民計画 数値目標を徹底議論したが、 具体的な数値は明示せず 単なる削減メニューのリストではない 大胆な都市のつくりかえを睨む	全く白紙からスタートした 会議は原則公開 参加者が手づくりで知恵を出し合う 実質的な数多くの会議 会議だけでなく、啓発活動も同時に行う

やってます!
暮らしの工夫

省エネしながら涼を取る! ~

蒸し暑い日。家に帰ったらすぐにクーラーのスイッチを入れて、急速冷房で涼んでいませんか? 確かにそんな快適・便利生活は、慣れると手放せないものです。

でも、クーラーに頼る生活は夏風邪など体調を崩す大きな要因。冷え過ぎた室内と温度差のある場所を出入りしていると、自律神経失調症になってしまう恐れもありますので注意が必要です。

というわけで、クーラーの電気代を節約しながら涼を取る工夫をご紹介します!

- ・お家の中に風を通しましょう。コツは風上の窓は狭く開けて、風下側は広く開けること。風下側の窓を2ヶ所開ければより効果的です!
- ・体温を下げる食べ物(例えば、スイカ、きゅうり、カレー、そば、豆腐など)を食べましょう。
- ・白熱灯の発熱量は蛍光灯の3倍! 電球と同じ色の蛍光灯に変えてみましょう。
- ・発熱量はわずかですが、電化製品の主電源を切りましょう。待機電力は全消費電力量の約10%もあるんだそうです。
- ・日光の照り返しを防ぐ為、ベランダに人工芝や鉢植えを並べましょう。
- ・遮光のため、簾を窓の外に付けましょう。風鈴もセットがいいですね。
- ・打ち水で冷気を入れてみましょう。
- ・一軒家なら、遮光のために庭に落葉樹を植えるのはいかがでしょう? 冬は落葉して日光を遮りませんから、暖房の使用量も減らせるはずですよ! そう言えば、昔の人も言ってるように、そもそも家は夏を基本とし選ぶべきなのかもしれませんね。あなたの家は夏向きですか?

社会にやさしい生活雑貨店 WAYS SHOP <http://www.ways.co.jp>



其の廿 新観光人の視線で

祇園祭、五山送り火で京都の夏は、名だたる猛暑にもかかわらず観光シーズンを迎える。その観光だが最近どうも少し様子が変わってきて、それらの中にまさって新しい動きをする人々が、しかも妙に増えてきた。

この人たちの特徴は一人かせいぜい二人連れで、うだるような昼日中、もはや名所旧跡には目もくれず、もっぱら町中の路地や小さな商店通りあたりに出没し、手には観光地図ではなくインターネット出力らしい手作り資料なんぞがあり、お年寄り一人の老舗や仁丹の地名表示板などにしじみと見入ったりしている。

追い求めているのは、時流に押し流されない「こだわり」の誇り高き姿勢であったり、小さいことや少なさを愛おしむ暮らしの姿や、その中にキラリと光る艶やかさの演出であったりです。つまり現代生活がほとんどが失いつつあり、しかし将来的には我々の地球環境への回答にもなるものを探しているのです。かえって「灯台も暗し」のこの町の住人が見逃しているものも多いかも知れません。

観光にはもともと「国の光を観る」という意味があり、これら新種の観光人はこの京都に潜む未来への「光」を学んでいるのでしよう。一度この新観光人達にガイドをお願いして京都市民のための「京都再勉強ツアー」など開催したら面白いかもしれません。

恩地 惇

(会員、環境デザイナー)

(株)G K京都取締役社長)

協力 KCTP(京都・サイクリ

ング・ツアー・プロジェクト



エコにはまず「心」あり

株式会社ジイケイ京都（GK 京都）

プロダクトデザイン、グラフィックデザイン、環境デザインをあわせた「総合デザイン」を手がけるジイケイ京都（以下、GK 京都）は、ユニバーサルデザイン、都市防災、そして環境保全など、社会問題の解決をデザインの分野で手がけてきた。今回は、都心のエコ交通プラン¹や省エネラベルなどフォーラム関連のデザインも担当。同社社長の恩地さん、デザイナーの池田さん、石川さんに、これからのデザインと社会との関係性や、企業の環境への関わり方などについてうかがった。

社会的活動の中から ビジネスは生まれる

石川さんは、GK 京都で、社会と深く関わったデザインとして、障害の有無、年齢、性別などに関係なく楽しめるユニバーサルデザインの分野でのスポーツ機器開発などを手がけてきた²。

同じ頃、環境デザインにも取り組むようになったが、そのきっかけは3年前、フォーラムの交通ワーキンググループと関わり始めたことである。「環境にやさしい交通体系を考えるためには、京都の都市景観を具現化することが大事ではないか」という声から上がり、景観材料推進協議会³が社会実験を行うときに使う仮設の歩道などを道路に設置したと想定して、「都心のエコ交通プラン～実施編」を

つくったのが始まりだ。

また、2003年度の社会実験を経て、今年度本格実施がはじまった家電製品の「省エネラベル」のデザインを手がけた。このプロジェクトに関わった池田さんはいう。

「家電店には所狭しと並んでいる商品には、値札やポップ（商品の説明書き）がいっぱい貼られているという状態です。そこに一石を投じるためには、文字や数字の羅列ではなく、落ち着いた印象のデザインで逆に特徴付けることにしました」

なるほど、こうして生まれたのが、5段階のランクを示す5枚の葉っぱで「エコロジー、エネルギー」の頭文字である「e」の字を形作る省エネラベルのマークなのだ。まさに多くの人に親しみを持って訴えかけるものを、ということ意識してつくられたデザインだ。

そこには全ての情報を同じだけ出すのではなく、優先順位とバランスでメッセージ性を出すというデザイナーの腕の見せ所が垣間見える。

社会問題の解決がデザイナーの本質

企業における環境への取組についての今後の展望として、恩地さんは明快な回答をくれた。「高度成長期を経験していない若い世代には、『環境』が思考の根本にある。だが、世の中の感覚には『戦後50年』が未だ抜きがた

く存在している。その矛盾を抱えたままなのが現代なのだろう。また、昔あった価値観で消えてしまったものが数多くある。『始末』という素敵な言葉はその典型だろう。すなわちエコロジーは倫理とつながるのだ。そしてこれからまた、そんな価値観が復活してきそうな気がしている。環境への取組に『関わられる』のではなく『関わらないとだめ』にまで持っていく必要がある。環境が企業の常識として、また広報力やブランド力といった経営資源として位置付けることが大事だろう」と。

来るべき次世代は、環境に配慮した生活や経済活動をすることは「当たり前」になっているかもしれない。環境への取組は「目を三角にして」するものではなく、そうすることが「オシャレ」あるいは「憧れの対象」になることが大切なようだ。

今日、企業は社会的責任を考えなければ経営が成り立たなくなってきている。ところがそういった思いもロジックもあるのに、多くの企業は実行できない。なぜならばコミュニケーションの不足があるからだ。そこに必要なのがデザインである。

だからこそ、GK 京都はデザインの本質と向き合っていきたいという。それは、社会的な立場をはっきり持ち、社会と深く関わる“体験”から得たものを「提案」として世に問い、そうすることで人々に「美しさ」と「喜び」を与え、最終的に社会問題を解決していくということなのである。

- 1 <http://www.jca.apc.org/ma21f/toshin/plan.html>
『あじえんだ』17号（2003年秋号）にも関連記事掲載
- 2 <http://www.univehicle.net/>
- 3 <http://www.jkiss.or.jp/keikan/>



「都心のエコ交通プラン」を立体模型として再現したもの。
(2003年11月 新風館にて)



省エネラベル

京都市伏見区醍醐地域における 環境まちづくり・ひとづくり支援の取組

醍醐環境フェスタ「はじめよう、広げよう 環境にやさしい暮らしとお買い物」開催報告

まちづくり・ひとづくりには時間がかかる

醍醐地域の地域女性会のメンバーが中心になって、環境問題について勉強しはじめたのは約4年前。それから「石鹸づくり」などの自主的な勉強会や「買い物袋持参運動」を経て、それまで環境の“か”の字も出てこなかった女性会も変わりはじめた。

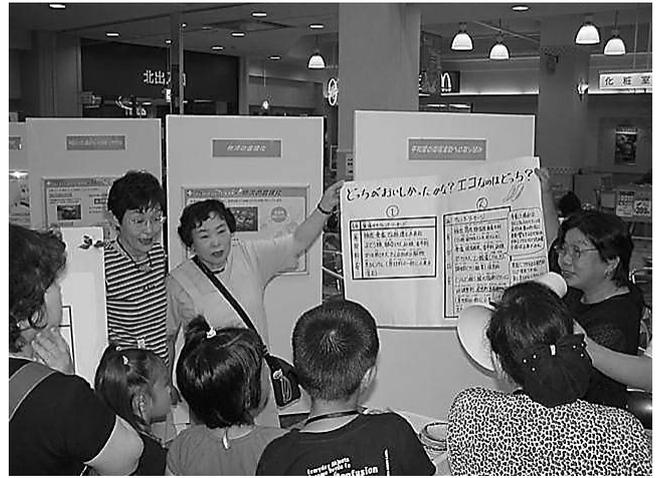
2003年度は、グリーンコンシューマー¹をテーマに連続7回の講座を開催した。主な目的はリーダーの養成。NPO法人環境市民は、講座への講師派遣や専門的なアドバイスを行った。しかし、人が育つには時間がかかる。講座を受けてすぐリーダーが生まれるわけではないのだ。そこで、もっと広く活動を知ってもらい、関心のある層を仲間になりたい。そのために大きくて目立つキャンペーンができないか。そこでにわかには持ち上がってきたのが、地元スーパーのアル・プラザ醍醐店と共催での「醍醐環境フェスタ」の開催だった。

パートナーシップで実現した「醍醐環境フェスタ」

NPO法人^{ふしみ}伏水サポートネットワーク、地域女性会、社会福祉法人^{みやこ}曙福祉会あけぼの保育園、京のアジェンダ21フォーラム、地元の有志住民と環境市民をメンバーにした実行委員会を発足させ、企画会議を重ねた。そこでは、あくまで主役は地域住民であり、環境NGOである環境市民は専門アドバイザー^{みやこ}、京のアジェンダ21フォーラムは両者をつなぐコーディネーター役と位置付けた。ただ、環境市民としては、講師派遣やプログラム企画だけの単発的な関わりではなく、各主体が持っている資源を活用して、プロセス（過程）を共有しながらパートナーシップを築いていかなければ、よいものはできないと考えた。そこで、プログラムの企画と当日スタッフ研修は環境市民が責任を持って行う一方、当日のスタッフは基本的に地域住民が担う、と役割分担を明確化させた。



フェスタの全景。買い物客へのアピール度は大きかった



食べ比べゲーム参加者に「どっちがおいしかった？」と語りかけるスタッフ

プログラムの内容は、店内に並んでいる実際の商品から環境配慮型のものを探す「お店エコ探検クイズラリー」を中心に、あけぼの保育園の先生手作りの「環境紙芝居」、ソーセージ、とうふ、かまぼこを使った「どっちがエコ？食べ比べゲーム」、深草の土²を原料にした壁土での「泥だんごづくり」など、大人から子どもまで楽しく参加できるワークショップが目白押し。それらの目的や参加者へのメッセージについても時間をかけて議論した。

数回のスタッフ研修を経て、いざ本番。6月11日（金）から13日（日）の3日間連続でお店の中央にあるオープンスペースを借りることができ、のべ数百人の参加があった。休日返上、朝から夕方までの長丁場というプログラムにも関わらず、笑顔を絶やさず買い物客に接する地域住民の姿が目につく。ここで学んだのは、お互いの立場を理解して、成長し合うことが大切であり、あせらずにビジョンに向かってともに歩んでいけば必ず夢は実現するということである。

目標は「モデルづくり」

今後、このイベントの総括を行い、成果を次の活動につなげていくための戦略を練っていくことになる。醍醐地域が地域へのグリーンコンシューマー普及のモデルケースとなるよう、客観的な視点での調査研究もあわせて行っていく予定である。

追記 「醍醐環境フェスタ」は、NPO法人モバイル・コミュニケーション・ファンドからの助成を受けて実施することができました。

（NPO法人環境市民 風岡宗人）

- 1 環境を大切にする消費者のこと。
- 2 伏見区深草地域は壁土に適した粘りのある土を産出する。

ひと
まち
きたる

津村 紗代さん



京都府立大学大学院人間環境科学
研究科食事学研究室 修士課程2
年生。当フォーラム食の循環ワー
キンググループモデル地域の葵学
区（左京区）で、学習会企画、生
ごみ回収・堆肥化作業、畑作業の
世話役など中心的役割を果たして
いる。

待ち人来る、ではなく「ひと・まち・きたる」
京のアジェンダ21フォーラムの会員で、積極的に活動
されている方を紹介していきます。

きっかけはイベント参加

学部的时候は、『竹炭を添加した乾燥生ごみが、作物に与える影響』をテーマに研究を進め、大学生協の食品残渣を、乾燥型電動生ごみ処理機を使用して竹炭を加えて堆肥化し、その堆肥を使った作物の生長を調べて研究をまとめた。この研究は一定の成果も出ていたので、一区切りつけることになった。大学院での新しい研究テーマを探していたちょうどその頃、2002年11月に開催された「家庭の生ごみ堆肥のつくりかた交流会」（食の循環WG主催）を指導教授より紹介され、参加することになった。

この交流会に大きなインパクトを受けたという。「これだけの人が生ごみについて真剣に語っている場所はない。メンバーにとっても勢いがあり、初めは指導教授とのパイプ役のつもりが、気がついたらすっかり自分がWGの活動に巻き込まれていました」。

学習会が生んだ生ごみ堆肥化の取組

2003年3月までWGが行った、他地域での生ごみ堆肥化の取組を調べた結果をもとに、同年4月から葵学区で地域での食の循環のモデル実験を始めることになった。「葵小学校（左京区）を会場に月1～2回、環境をテーマとした地域住民対象の学習会を、これまで計15回行いました。ここで、地域の人に少しずつ『生ごみの堆肥化』を受け入れてもらった気がします」と津村さん。学習会を契機に立ち上がった地域の環境サークル「葵エコクラブ」を中心に、葵小学校、京都府立大学との協働でプロジェクトは動き出した。

学習会を開催する一方、WGでは、生ごみ回収実験の方法、堆肥を作る機械選びを進めた。遠く明石市まで機械を見に行ったりもしたが、結局、食事学研究室で行われていた家庭用の乾燥型電動生ごみ処理機による方法に落ち着いた。「この方法は電気代が高くつきますが、特殊な菌を使用しないので、その土壌の菌層を大きく変化させることがありません。さらに、竹炭を入れることで、処理時間が短縮

でき、臭いも抑えられ、土壌の状態も良くするんですよ」とのこと。回収・堆肥化拠点を京都府立大学構内としたため、回収は学生が週2回、自転車で行くことになった。学習会参加者を中心に、地域で生ごみ回収実験参加者を公募し、プレ実験を経て、9月から大学周辺の家庭25軒で生ごみ回収実験を開始した。

私の「大きな収穫」

今年2月に、乾燥させて保管していた生ごみを、府立大学付属農場にすき込んで堆肥作りを始め、その堆肥を使った野菜作りをこの5月に始めたばかり。これから、夏、秋と収穫時期がやってくる。「自分の作った野菜はかわいいとみんな思うみたい。何より、太陽、大地、人間の汗と涙の力で、本当においしい！だから楽しみはこれからですよ」とにっこり笑う。食は人間の大事な生活の一部だから、大切にしないと、という思いがあふれている。

「前々からボランティアに対して憧れがあり、自分も何かやらなきゃと感じていたので、ちょうど良い機会に恵まれたと思っている。実際やってみると、本当に大変！でもその分楽しくて、いろいろな人に出会うことができる」という。「生ごみを回収している時、生ごみを出される方に『ありがとう』と言ってもらったり、生ごみ回収仲間と仕事の後でお茶会をしたり、葵小学校の子どもたちとの関わりも。今では地域の人も小学生もみんな友達だって思えます。これに関わらなければ出会えなかった人たちのいろんな考え方にふれ、多様性をじかに感じて、想像力が養え、人間に対する愛情がわきました」。

卒業後は、この人々と関わった経験を活かして、栄養士として働きたいという。生ごみを減らすことは調理の仕方を変えることであり、メニューを考えること、そして体に良い食材を選ぶことにつながる。「心も体も健康に」ということを人に伝えたいそうだ。そうして、食の循環の輪は広がっていくのだろう。

（聞き手〔写真も〕千葉有紀子）

京のアジェンダ21フォーラム入会のご案内

【年間会費】

一口1,000円を単位として、会員ごとに次の口数分とします。

(1)個人会員 1口 (2)団体会員 2口以上

*会費は郵便振替または銀行振込をご利用ください。

郵便振替口座：00960-7-143508

京のアジェンダ21フォーラム

銀行振込口座：UFJ銀行京都支店 普通 5468383

京のアジェンダ21フォーラム

【会員の特典】

ニュースレター・各種案内資料の無料送付、ワーキンググループへの参加、主催行事への参加など

みやこ

京のアジェンダ21フォーラムニュースレター 2004年夏（第20号）

発行：京のアジェンダ21フォーラム事務局

〒604-8571 京都市中京区寺町通御池上ル上本能寺前町488番地

京都市環境局環境政策部地球環境政策課内

TEL. 075-222-4037 FAX. 075-222-4039

E-mail. ma21f@mbox.kyoto-inet.or.jp

URL. http://web.kyoto-inet.or.jp/org/ma21f/

企画：同フォーラムニュースレター編集チーム

編集：滋野浩毅・小田桂子・竹村光世・千葉有紀子

デザイン・レイアウト：藤本芳一

このニュースレターは風力発電による自然エネルギーを使用して、古紙100%の再生紙に大豆油インキで印刷しています。

